土曜
ASHUREY CLASS

原文で味わう詩篇

תהלים

No.32 (詩篇91篇) 2025. 8. 23

「詩篇」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、
聖書を調べています。
その聖書は、わたしについて証ししているものです。
40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るために
わたしのもとに来ようとはしません。

※イェシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それはイェシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えてくるということです。
詩篇もそのように、預言的、奥義的、重層的に読んでいきたいと思います。
※詩篇は預言書です。詩篇の作者ダビデは、本体であるイェシュアを証ししています。
なぜなら、御子イェシュアはダビデの先取的存在だからです。

1．テキスト ①

【新改訳2017】詩篇91篇1～13節

1 いと高き方の隠れ場に住む者　その人は全能者の陰に宿る。

2 私は主に申し上げよう。「私の避け所　私の砦　私が信頼する私の神」と。

3 主こそ　狩人の罠から　破滅をもたらす疫病から　あなたを救い出される。
4 主は　ご自分の羽であなたをおおい
あなたは　その翼の下に身を避ける。主の真実は大盾　また砦。
5 あなたは恐れない。夜襲の恐怖も　昼に飛び来る矢も。
6 暗闇に忍び寄る疫病も　真昼に荒らす滅びをも。
7 千人が　あなたの傍らに　万人が　あなたの右に倒れても　それはあなたには近づかない。
8 あなたはただ　それを目にし　悪者への報いを見るだけである。
9 それは　わが避け所　主をいと高き方を
あなたが自分の住まいとしたからである。
10 わざわいは　あなたに降りかからず
疫病も　あなたの天幕に近づかない。
11 主が　あなたのために御使いたちに命じて
あなたのすべての道で　あなたを守られるからだ。
12 彼らはその両手にあなたをのせ
あなたの足が石に打ち当たらないようにする。
13 あなたは　獅子とコブラを踏みつけ　若獅子と蛇を踏みにじる。

1～13節での人称は「その人」と「私」と「あなた」と「彼ら」です。

1. テキスト ②

【新改訳2017】詩篇91篇14～16節

14 「彼がわたしを愛しているから
わたしは彼を助け出す。
彼がわたしの名を知っているから
わたしは彼を高く上げる。
15 彼がわたしを呼び求めれば　わたしは彼に答える。
わたしは苦しみのときに　彼とともにいて
彼を救い　彼に誉れを与える。
16 わたしは彼をとこしえのいのちで満ち足らせ
わたしの救いを彼に見せる。」

14～16節での人称は「彼」と「わたし」です。

2. 人称の同定と語っている主格 ①

●人称を同定した上で、以下の①～④を誰が語っているかを同定する必要があります。

①1節「いと高き方の隠れ場に住む者　その人は全能者の陰に宿る」

②2節「私は主に申し上げよう。」

③3～13節 「主こそ ・・・あなたを救い出される」

④14～16節「彼がわたしを愛しているから　わたしは彼を・・」

2. 人称の同定と語っている主格 ②

①1節「いと高き方の隠れ場に住む者　その人は全能者の陰に宿る」
➡　人称なき存在(御父と御子のかかわりについて)

②2節「私は主に申し上げよう。」
➡　御子(御父に対する告白)

③3～13節　「主こそ　・・・あなたを救い出される」
➡　人称なき存在(御父と御子のかかわりについて)

④14～16節「彼がわたしを愛しているから　わたしは彼を・・」
➡　御子に対する御父の約束

3. サタンが引用しなかった部分 ①

●詩篇91篇がなにゆえにメシア詩篇であるかと言えば、11節と12節が、マタイの福音書4章6節に、またルカの福音書4章10～11節に引用されているからです。ただしこれを引用したのはサタンです。これは、サタンさえも聖書のことばを用いるということの例証です。

●使徒パウロは「サタンさえ光の御使いに変装するのです」(Ⅱコリント11:14)と述べ、また「サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません」(同11:15)と述べています。しかし、サタンは自分に都合の悪い箇所は決して引用しないのです。詩篇91篇の11節と12節のことばを用いてイェシュアを誘惑しようとしましたが、13節にある「あなたは獅子とコブラとを踏みつけ、若獅子と蛇とを踏みにじろう」という部分は引用しないのです。このことから、みことばをコンテキスト(文脈)から切り離して用いることの危険を教えられます。

3. サタンが引用しなかった部分 ②

●詩篇91篇13節の「あなたは獅子とコブラを踏みつけ　若獅子と蛇を踏みにじる 」はサタンが引用しなかった部分です。しかしそれがイェシュアによって実現されます。これは創世記3章15節に預言されていることです。

【新改訳2017】
わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。

●ここにある「女の子孫」は単数男性形であり、メシア・イェシュアのことです。彼が蛇(サタン)の頭を踏み砕くのです。サタンは荒野での誘惑に完敗しただけでなく、イェシュアの十字架と復活の出来事によって、蛇の頭(サタン)は砕かれました。イェシュアは死と復活によって、悪魔という死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださったのです。

4. 御子に対する御父の覆い ①

●メシア・イェシュアの生涯には、常に御霊が寄り添っていました。それゆえ御霊は御父の覆いの中に住む御子を語ることができるのです。

●1節の「いと高き方の隠れ場」および「全能者の陰」は同義的パラレリズムで、人称なき存在が語る絶対的な覆いです。そこは神殿の最も奥にある至聖所(innar sanctuary、Most Holy Place)です。

いと高き方の隠れ場に住む者　エルヨーン　ベセーテル　ヨーシェーヴ　יֹשֵׁב בְּסֵתֶר עֶלְיוֹן

(יָשַׁבの分詞)

その人は全能者の陰に宿る。　イトゥローナーン　シャッダイ　ベツェール　יִתְלוֹנָן בְּצֵל שַׁדַּי

(לוּן のヒットパエル未完了)

●神殿の最も奥にある至聖所を「デヴィール」(דְּבִיר)と言います。

4. 御子に対する御父の覆い ②

●さらに人称なき存在である聖霊は、御子にある御父の絶対的な覆いを3～13節で語っています。その中に以下のことばがあるのです。

11 主が　あなたのために御使いたちに命じて
　　あなたのすべての道で　あなたを守られるからだ。
12 彼らはその両手にあなたをのせ
　　あなたの足が石に打ち当たらないようにする。

●ここには御父が御使いたちに命じて、御子の歩むすべての道において守られることが語られています。その「守り」(シャーマル：שָׁמַר)とは、御使いたちの手によって、御子の前に置かれるさまざまな危機的状況から御子をのせる(=運ぶ/ナーサー:נָשָׂא）ことで、危機から免れるのです。その中の一つのエピソードを挙げて見ましょう。

4. 御子に対する御父の覆い ③

●御霊に「引き回されて」の40日間の荒野での試みとサタンの誘惑に勝利されたイェシュアは、彼に寄り添っている御霊によって御父の絶対的な守りの保障の中で公生涯に入られました。ルカは、イェシュアが育ったナザレにおいて起こった公生涯の最初の出来事(ルカ独自)を記しています。
●4章16～30節の箇所で、ナザレの人々のイェシュアに対する反応が前半と後半では全く逆になっています。22節では「みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた」とあるのに対して、28節では「これらのことを聞くと、会堂にいた人たちはみな、ひどく怒り・・イエスを町の外に追い出し、・・崖のふちまで連れて行き、そこから投げ落とそうとした」とあります。「ほめ、驚いていた人々」が、みな「ひどく怒り、がけから投げ落とそうとする」ということは意外な展開です。イェシュアの何が人々にそうまでさせたのでしょうか。説明できる人がいるでしょうか。

4. 御子に対する御父の覆い ④

●答えの手がかりは、イェシュアが二人の預言者のことを取り上げて語られたことにあります。最初の預言者の一人であるエリヤの時には、大飢饉が起こったときイスラエルには多くのやもめがいたにもかかわらず、彼は異邦人(シドンのサレプタ)のやもめのところに遣われてそこで養われたこと。次の預言者エリシャの時には、イスラエルにも多くのツァラアトがいたにもかかわらず、シリヤのナアマンだけがきよめられたこと。それらの話を聞いたナザレの人々は「ひどく怒った」のです。これは、当時のユダヤ人たちが異邦人に対してどのように思っていたかを知ることなくして、異邦人である私たちには理解しにくいことだからです。

●過去400年間にわたってユダヤ人は異邦の国(バビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマ)によって支配され、搾取されてきました。それゆえ、異邦の国の支配から解放としてくれるメシアをずっと待望して来たのです。ですから、イェシュアからイスラエルの偉大な二人の預言者が異邦人の女によって守られたことや、異邦人にいやしを与えた話を聞かされたことで、いたたまれなくなったのです。そのため、イェシュアに対して町から追い出そうとするだけでなく、崖から投げ落とそうと敵意をむき出しにしたのでした。

4. 御子に対する御父の覆い ⑤

●ルカがこのナザレでの出来事を記したのにはそれなりの理由があります。その理由とは、このナザレでの出来事の中にこれから展開されるイエシュアの公生涯がコンデンス(集約、要約、濃縮)されているからです。イエシュアの語るメッセージも、またすべての行為(預言者として拒絶され、迫害され、殺されること)も、実はナザレで起こった出来事に集約されているのです。

●イエシュアが安息日に会堂で朗読しようとして渡されたのは預言者イザヤの巻物でした。イエシュアはその場で、61章を開いて朗読され、「きょう、このみことばが、・・聞いたとおり実現しました」と言ったのです。引用されたその箇所は、イエシュアがこれからの公生涯において語るメッセージの要点でした。引用されたイザヤ書のみことばがイエシュアの公生涯をどのようにコンデンスしているかに注目してみましょう。

4. 御子に対する御父の覆い ⑥

【新改訳2017】ルカの福音書4章18～19節

18 「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし、19 主の恵みの年を告げるために。20 イエスは巻物を巻き、係りの者に渡して座られた。会堂にいた皆の目はイエスに注がれていた。21 イエスは人々に向かって話し始められた。「あなたがたが耳にしたとおり、今日、この聖書のことばが実現しました。」22 人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いて、「この人はヨセフの子ではないか」と言った。

●人々はみなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いたとあります。しかしイェシュアは「主の恵みの年を告げる」(19節)で読み終り、次に来る「われらの神の復讐の日を告げ」を語らずに、先ほどの異邦人の話をしたので人々の態度は豹変したのでした。

4. 御子に対する御父の覆い ⑦

●ここで注目したい点は、人々がイェシュアを町から追い出すだけでなく、崖から投げ落とそうとした時、イェシュアは「彼らの真ん中を通り抜けて、行ってしまわれた」(4:30)と記されているところです。実に不思議な展開ですが、詩篇91篇11～12節にある約束のように、イェシュアが御使いたちの手によって「運ばれた」のだとしたら、納得できる話です。

●この話の他にも、イェシュアに対する殺害の陰謀が起こりました。しかし神の時が来るまでは、敵の陰謀が全く実現しなかったことからも、イェシュアが御父の絶対的な守りの中を歩まれたことが分かります。これはイェシュアの中へと信じる者に対しても、等しく約束されている守りなのです(ヨハネ17:9～11節参照)。

4. 御子に対する御父の覆い ⑧

●今回の詩篇の３節と６節に「疫病」という語彙があります。

３ 主こそ　狩人の罠から　破滅をもたらす疫病から　あなたを救い出される。
６ 暗闇に忍び寄る疫病も　真昼に荒らす滅びをも。

●「疫病」は「デヴェル」(דֶּבֶר)で、これは「ことば」を意味する「ダーバール」(דָּבָר)と語根が同じです。ペストやコロナも一種の疫病ですが、神に対する「不平、つぶやき、うわさ、陰口」も「疫病」と言えます。それはすばやく周囲に蔓延して、破滅をもたらします。

【新改訳2017】民数記14章37節
こうして、その地(カナンの地)を悪く言いふらした者たちは、主の前に疫病で死んだ。

●疫病で死んだのは、全会衆にモーセに対する不平を言わせた者たちも含まれます。

今日のまとめ

●詩篇91篇は「守りの詩篇」と言われています。御子を覆う御父、その御父に信頼する御子の信仰が預言されています(ヨハネ5:39)。この信頼こそ「永遠のいのち」と言われるものです。イェシュアは常に霊の中におられたことで守りの保証があったのです。神殿の「至聖所」は「デヴィール」(דְּבִיר)、疫病の「デヴェル」(דֶּבֶר)。語源である動詞「ダーヴァル」(דָּבַר)には両義性があります。

●イェシュアは御国の福音を伝えるために来られました。とすれば、私たちもそれを知り、それを伝えなければなりません。その使命達成のために、保障される守りがあるのです。イェシュアがそうであったように、私たちも「主は私の避け所　私の砦　私が信頼する私の神」と告白するものとならなければなりません。